

平成26年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り組み(改善策等)
1 共通教科と専門教科の指導連携により学習意欲を喚起し、分かる授業への工夫改善に努め学力の向上を図る。	① 授業でICT機器、視聴覚教材を効果的に活用し、学習内容の理解を促進する。また、生徒自身がICT機器を活用する場面を設定し、言語活動の充実を図る。	「授業においてICT機器、視聴覚教材を活用している」の肯定評価の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である。	十分活用している 3.8% 活用している 53.8% あまり活用していない 38.5% 活用していない 3.8% 肯定評価 57.6% 評価 D	研究授業のテーマを「言語活動の充実に向けたICT機器の効果的な活用」と設定し、実物投影機・プロジェクターの効果的な活用に取り組んだ。 ICT機器を直ぐに活用できる環境作り、実物投影機やプロジェクターを活用する教材の蓄積が十分ではなかった。 ICT機器の効果的な活用実践について校内研修を企画し、言語活動を活性化し、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。
	② 学習意欲を喚起し学力の向上を図るため、学習形態や指導方法、指導内容を精選する。	「授業は分かりやすく工夫されている」と評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満である。	全校 82.5% 1年生 78.8% 2年生 83.6% 3年生 81.8% 専攻科 86.5% 評価 B	話し合い、説明、発表等、生徒が主体的に活動する場面を設定するように各教科で取り組んだ。ICT機器の効果的な活用で、生徒の関心・意欲を喚起し、学習内容の理解を促進するよう努める。 1年生の結果が他学年と比較し低い。生徒の習熟度を把握し、個別指導やグループ別指導等による個に応じた指導を実施する必要がある。
	③ 教科間の情報交換を密に行い、学力の向上を図る。	「教師間での指導連携をしている」の肯定評価の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である。	十分行っている 3.8% 行っている 46.1% あまり行っていない 38.5% 行っていない 11.5% 肯定評価 49.9% 評価 D	各教科の既習事項や内容の取り扱いについて情報交換を行った。また、各教科での効果的な指導法の実践について、研究授業の参観、研究協議会で共有化した。 定期的にテーマ設定する等の意図的な働きかけが十分ではなかった。具体的な指導連携場面について共通理解を図りたい。 看護師・介護福祉士に求められる各教科における学習スタンダードを検討し共有化を図る必要がある。
学校関係者評価委員会の評価	ICT 機器活用に関して、半数以上が活用しているということから「わかりやすい授業」への教職員の工夫を感じることができる。機器の使用は操作の慣れも必要であり、準備にも多くの時間がかかる、継続して取り組んでもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の効果的な活用で、生徒の関心・意欲を喚起し、学習内容の理解を促進するよう努める。 各教科間での情報交換をさらに行い、効果的な指導法の実践を共有化できるよう機会を設けることにより、看護師・介護福祉士に求められる基礎知識を定着させ、一層の学力向上に努める。 			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り組み(改善策等)
2 専門教科指導の充実とブランド化に向けた質の向上に努め、看護師・介護福祉士国家試験100%合格を継承する。	① 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	偏差値42未満の生徒が A 0人 B 2人 C 4人 D 5人以上 である。	1年:看護模試(専門科目2科目) 9名 評価 D 2年:看護模試(専門科目2科目) 4名 評価 C 3年:看護模試(専門科目3科目) 5名 評価 D	1年:専門偏差値 49.3 全体的に基礎医学が低い。個別補習により基礎的な知識の強化とともに家庭学習の習慣化を図る。 2年:専門偏差値 52.2 全体的に基礎看護が低い。個別補習による底上げとともにクラス全体の学習課題の取り組みを強化し、知識定着を図る。 3年:専門偏差値 57.5 上位と下位の幅が大きい。成績低迷者への個別補習を行い、基礎的な知識を確実に定着させる。 今後、知識定着を確実に図るため、模試結果の分析・検討会議を開き、クラスの状態に応じた有効な学習指導方法を確立する。
	② 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。	専1:看護模試 必修 1人 評価 B 一般 0人 評価 A 専2:看護模試(1月実施) 必修 0人 評価 A 一般・状況 0人 評価 A 看護師国家試験全員合格	専1: 総合偏差値 60.8。全体的に基礎的な知識は定着している。弱点領域の全体補習と成績低迷者の個別補習を継続する。また、シミュレーション演習を充実させ、状況判断力を高めていく。 専2: 総合偏差値 59.5。放課後グループ学習、模試結果を科目・個人別に分析し、弱点補強及び個別補習を実施し全員がボーダーラインを越えた。今年度の国家試験では思考型問題が多く出ていることから、調べ学習中心の思考型学習を強化し取り組む。
	③ 施設実習において実習指導者と連携を図り、実習に対する意欲や協調性を高める。 3年生には知識の確実な定着のための個々に合った指導方法を工夫する。	実習評価の意欲・協調性の項目の評価が「3以上」である生徒の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 である。 (3年生)クラスの平均得点率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	(1・2年生) 1年生 84.7% 評価 C 2年生 83.3% 評価 C (3年生) クラスの平均得点率が 77.3% 評価 B	1年生:実習における「協調性」を高める具体的な方法を全員に指導できていなかったため、C評価となった。今後、全体学習と並行して個人対応を行う。 2年生:後半にグループ対応の実践を行うことにより7ポイントアップしたが、結果はC評価であった。一期ごとの実習の振り返りをしっかり行い、「2」以下の生徒には個々の不足点について個別指導を行う。 3年生:国家試験の自己採点の結果である。読解力が必要な問題に対し、根気よく解説しながら多くの問題を解いていくことが効果的であったと思われる。今後は、早期からこの指導法を取り入れていく。
学校関係者評価委員会の評価	両科ともに国家試験合格率100%を維持していることは大変素晴らしい。先生方の指導力の大きさもさることながら、それを受け入れる生徒たちの努力も素晴らしい。精神面でのフォローも大切に今後も継承してもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	・看護師・介護福祉士国家試験の全員合格を継承するため学習面での指導はもちろん、悩みの相談などカウンセリングも含め指導体制をより一層充実させる。 ・国家試験の問題傾向が年々変化してきていることを踏まえ、分析をしっかり行い指導を改善していく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り組み(改善策等)
3 地域の医療・福祉を支える人材確保に向け、本校が果たす役割の啓発に努め、志願者の開拓に取り組む。	① 地区説明会、個別説明会等の開催、公開授業の実施、ホームページの内容充実により、本校への理解を深める。	各科の推薦・一般それぞれの志願者数が昨年度より A 大きく上回った。(20%以上) B 上回った。(10%以上) C 変わらなかった。 D 下回った。(10%以上)	衛生看護科 推薦 評価 A 一般 評価 A 健康福祉科 推薦 評価 D 一般 評価 D	昨年度と比較し地区説明会・個別説明会の参加者が20名増加した。中学生、保護者、中学校関係者等に看護師・介護福祉士資格取得を本校で目指す利点や看護・福祉の魅力について情報提供する機会を多く持った。 健康福祉科の志願者数が伸び悩んでいる。介護福祉士の将来性・必要性についての広報活動を、福祉施設・関係機関と連携して実施したい。
	② 小・中学校への出前授業や本校での交流学习を継続発展させる。	小・中学校への出前授業や本校での交流学习の回数が A 20回以上 B 15回以上 C 10回以上 D 10回未満 である。	小・中学校の出前授業を17回実施した。 評価 B	小・中学校側の要望に応えながら内容を変えていくことにより、依頼回数が増えてきた。小学校からは、継続実施の依頼もあるため、来年度以降も実施していきたい。来年度は、実施地区を広め対応していく予定である。
学校関係者評価委員会の評価	地域の医療・福祉を担う学校として、人材確保に努めてもらいたい。衛生看護科はとても志願者が多いが、健康福祉科の志願者が伸び悩んでいる。政府の政策の影響もあるのかもしれないが、介護福祉に対するイメージを高める工夫が望まれる。			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	健康福祉科の教員による、地域の小・中学校への出前授業で、よい感触を得ている。子どもたちからも、教員からも「福祉」についてこれまで気づけなかったことを知って視野が広がったという反応を得てきた。子どもたちの3～4年後の成長に期待しながら、今後も出前授業を継続し、福祉について理解してもらうよう努める。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の取り組み(改善策等)
4 部活動や生徒会活動等への積極的参加を図り、看護や福祉の道を志す生徒にふさわしい人間力を育成する。	① 部活動の積極的な参加を推奨し、意欲、忍耐力、規範意識を養成する。	アンケートにて、部活動に積極的に参加できた生徒の割合が A 90%以上 B 70~90%未満 C 50~70%未満 D 50%未満	後期アンケート結果にて、部活動に積極的に参加したと答えている生徒は、77.7%である。 評価 B	<p>新年度に部活動推進週間を設け、活性化を図ったが、徐々に部活動へ向かう意欲が低下していった。元々の消極的姿勢に加え以下の要因が考えられる。</p> <p>①総体総文終了後、3年生が引退し練習意欲が低下する。 ②実習期間の後、引き続いて部活に行かない。 ③課題未提出者には放課後の居残りがある。 ④放課後に専門教科実技試験の練習を行う場合がある。</p> <p>上記問題の解決のための取り組みとして</p> <p>①生徒会が中心に部活動への積極的参加を促す。 ②参加意欲が低下しがちな時期に推進週間を設け、部への帰属意識を高める。 ③部長会議での情報交換によって部長のリーダー力を高める。 ④参加しない生徒に個人面談を行い参加を促す。など、部活動参加の意義を感じられるように働きかけ続けていく。</p>
	② 縄跳び(二重跳び)の実施により、自己記録の更新に努めながら、諦めない態度や体力の向上を図る。	二重跳びが連続30回以上できる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	二重跳びが連続30回以上できる生徒の割合が 全校 71.6% 1年生 79.2% 2年生 71.3% 3年生 64.9% 評価 B	記録の提示や言葉掛けにより、記録を伸ばすことが出来たが、クラスによって達成度は大きく異なる。一番高いクラスは85%である。また前回一番低かったクラスが25%から74%と記録を更新し、諦めない態度や体力の向上を図ることができた。達成度判断基準の目標値を見直し、今後も指導を継続する。
	③ 挨拶をする習慣を身につける。	保護者アンケートで A ほとんど全ての生徒が挨拶している。 B 多くの生徒が挨拶している。 C 挨拶している生徒は半数程度。 D 挨拶している生徒は半数以下。 A+Bの割合が95%以上である。	4月のPTA総会 A+Bの割合 87.3% 7月の保護者懇談会 A+Bの割合 93.2% 12月の保護者懇談会 A+Bの割合 96.3% 評価 A	生徒指導課では、今年度も引き続き挨拶励行を目標に掲げ取り組んできた。生徒会の公安委員と協力しながら、毎月1週間は強化週間を設け「朝の挨拶運動」を実施してきた。この運動も定着し、全校的に挨拶する習慣が身につけてきていることが実感される。ただ、日中、放課後の挨拶はまだ充分とはいえない。今後も全校的な指導を継続しなければ、この割合もすぐに低下すると考えられる。
学校関係者評価委員会の評価	田鶴浜高校生の朝夕の登校の様子が、街の雰囲気を作っている。生徒の元気でさわやかな挨拶はその大切な要素になっている。これからも、看護・福祉に携わる者としてふさわしい、明るく、元気な挨拶ができるよう指導を続けてもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師・介護福祉士に求められる体力、忍耐力をつけるためにふさわしい種目を選んで、指導を継続していく。 ・きちんとした挨拶をする習慣を身につけさせることは永遠のテーマであり、立ち止まってしっかり挨拶ができるよう指導する。 			